川根本町 図書室だより

7月

2023年7月号

・文化会館図書室（小長井）
・山村開発センター図書室（上長尾）
・移動図書館車やまびこ号：川根本町内7コース
TEL：0547-59-3106（文化会館）
TEL：0547-56-2231（山村開発センター）

☆ 開室時間：午前９時～午後５時
☆ **休室日:月曜日・第3日曜日（16日）・休日の翌日（18日）**
☆ **やまびこ号巡回コース**は
かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新着図書

『ポケモン×工芸 美とわざの大発見』
国立工芸館 監修　東京美術

ポケモンをモチーフにした工芸品　文

人間国宝から若手まで20名のアーティストが、「工芸」の素材と技法でポケモンと「真剣勝負」。そのひらめきと悶えと愉しみの中から生まれた約70点の作品を掲載。工芸ならではの豊かな物質感と卓抜のわざが極めた、ポケモンの思いがけない表情を堪能できる。「ポケモン×工芸展 ―美とわざの大発見―」公式図録。

『ゼロからの『資本論』』
斎藤幸平 著　NHK出版

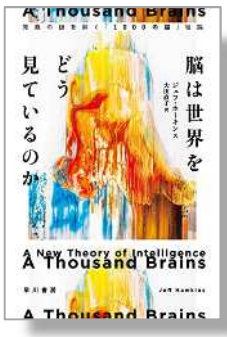
『資本論』入門書!　山

マルクスの手稿研究で見出した「物質代謝」という観点から、世界史的な名著『資本論』のエッセンスを、その現代的な意義とともにていねいに解説する。新・マルクス＝エンゲルス全集（MEGA）の編集経験を踏まえて、“資本主義後”のユートピアの構想者としてマルクスを描き出す。

『脳は世界をどう見ているのか知能の謎を解く「1000の脳」理論』ジェフ・ホーキンス 著　早川書房

脳の最大の問題が解けた！　文

細胞の塊にすぎない脳に、なぜ知能が生じるのか？　カギは大脳新皮質の構成単位「皮質コラム」にあった。ひとつの物体や概念に対して何千ものコラムがモデルを持ち、次の入力を予測している――脳と人工知能の理解に革命を起こす「1000の脳」理論、初の解説書



『無神経の達人』
千原せいじ 著　SBクリエイティブ

ストレスゼロの生き方　山

「言わずもがな」「以心伝心」「ツーカー」「腹の探り合い」「あ、うん」……そんな従来の日本的なコミュニケーションはとっくにオワコン。日本人には「無神経さ」が足りないし、コミュニケーションはもっと「雑」でいいのである！「マサイ族とも打ち解ける男」「コミュ力モンスター」として知られる千原せいじが、日本人離れしたコミュニケーションの極意を語る。

CD

NEW

文　『音楽』
NEWS(ニュース)

山　『若大将ベスト』
加山雄三

※所蔵状況　文 文化会館図書室　山 山村開発センター図書室

裏面へ続く

◎ 新着図書

新刊の詳しい情報は、【川根本町図書ネット】で検索。
または、右記QRコードよりご確認いただけます。

川根本町インターネット図書室ホームページ

図書だよりバックナンバー

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
●『 街とその不確かな壁 』 村上春樹 著　新潮社 十七歳と十六歳の夏の夕暮れ……川面を風が静かに吹き抜けていく。彼女の細い指は、私の指に何かをこっそり語りかける。何か大事な、言葉にはできないことを。高い壁と望楼、図書館の暗闇、古い夢、そしてきみの面影。自分の居場所はいったいどこにあるのだろう。	●『 夜空に浮かぶ欠けた月たち 』 窪美澄 作　KADOKAWA 精神科医の夫・旬とカウンセラーの妻・さおりが営む「椎木（しいのき）メンタルクリニック」。夫妻はさまざまな悩みを持つ患者にそっと寄り添い、支えていく。だが、夫妻にもある悲しい過去があって……。
●『 はるか、ブレーメン 』 重松清 著　幻冬舎 3歳で母に捨てられ、育ての親である祖母も亡くし独りぼっちになった遥香は、走馬灯を描く旅をアテンドする謎めいた旅行会社を手伝うことに・・・。母の走馬灯には、何が映っているのだろう。人生の思い出をめぐる、16歳の少女のひと夏の物語。	●『 それでも旅に出るカフェ 』 近藤史恵 著　双葉社 世界のさまざまなカフェメニューを提供する、カフェ・ルーズ。円が営むカフェもコロナ禍の影響を受けていて……。日常のちいさな事件や、モヤモヤすることを珍しいお菓子が解決していく。「こんなカフェに行きたい！」の声続々のコージーミステリー第二弾。
●『 殺戮の狂詩曲 』 中山七里 著　講談社 高級老人ホームで発生した、令和最悪の凶悪殺人事件。好人物を装っていた介護職員の心中に渦巻く邪悪。最低な被疑者への弁護を名乗り出た悪評塗れの弁護士・御子柴礼司が、胸に秘める驚愕の企みとは？	●『 行きつ戻りつ死ぬまで思案中 』 垣谷美雨 著　双葉社 人づきあい、老後のあり方、家族のこと、そして自分のこと…。「よくぞ言ってくれた!」と思わず膝を打つ、ベストセラー作家が自分をさらけ出したエッセイ集。
●『 糸暦 』 小川糸 著　白泉社 絶品の山菜料理、りんごケーキ、手作り石けん、自分流の年越しなど。 12ヶ月に沿って、季節を愛おしみ、旬を味わう暮らしを、等身大に綴る小川糸の歳時記エッセイ。	●『 夜のだれかの岸辺 』 木村紅美 著　講談社 「毎晩、添い寝してほしい、ついでに朝ごはんもいっしょに食べてほしい」 19歳の春、茜は89歳のソヨミに雇われ、風変わりなアルバイトを始めた・・・。
 ●『 ようかいむらのぴかぴかにゅうがく 』 たかいよしかず 作　国土社 妖怪学校に入学したたまにゃたちは、相手の思っていることがわかる校長先生に出合います。たまにゃたちの学校生活はどうなるのでしょう…。	●『 きみはすばらしい いまのアリとキリギリス 』 のぶみ 作　東京ニュース通信社 のぶみ×武田双雲がおくる、自分の人生を「自分であるために生きる」という新しい解釈の「アリとキリギリス」の絵本。

おすすめ！

「100さいの森」 松岡達英著　祥伝社

明治神宮　奇跡の森の物語

文化会館センター
図書室所蔵

大都市東京のど真ん中、明治天皇と皇后をおまつりする明治神宮の100年の森。東京ドーム約15個分の広さの人工の森です。以前は荒れた地に全国からの献木約10万本、多くの知恵と力から永遠の森を目指して造られました。戦火をも越え、今にち大きく豊かな森になっています。

私が参拝した折、森はとても穏やかで整えられた美しさを感じました。優しく見守るような木々、心地よい風に木漏れ日がキラキラと輝き、御苑の清らかな水池では、花が咲き水鳥は水浴び、ひょっこりたぬきの親子と出会い記念撮影も出来ました。にぎやかな鳥の声も虫の声もずっと楽しませてくれました。

この絵本はそんな100さいの森の透明感や力強い息づかいを伝えてくれています。
ガイド役の野鳥ヤマガラは愛らしく、植物、昆虫や人も実に生き生きとしています。

自然と共に生きる。豊かな恵みを分かち合い、育み活かし、壊し再生し、すべてのいのちは循環していきます。そんな生命のサイクルに美しい感動を覚えました。生きとし生けるものすべての生命の輝きはこの世界を創っている。もちろん私たちも。共に生きている素晴らしさを自然と感じられることでしょう。

図書室スタッフN子(^^